

2026年8月26日

**世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書（2024 年度採択案件）**

1. 業務の概要	
(1) 案件名	フィリピン 南レイテ州の離島・リマサワ島の経済的脆弱層で組成した受益者グループにおける貯蓄貸付の仕組み導入支援
(2) 実施団体名	ブルードット
(3) 実施期間	2025 年 7 月 28 日～2026 年 7 月 27 日
(4) 実施国	フィリピン共和国・南レイテ州
(5) 活動地域	リマサワ町（島）
<p>(6) 活動概要</p> <p>①活動の背景：</p> <p>本事業の対象地であるフィリピン南レイテ州リマサワ町（島）は、人口約 6,500 人の小規模な離島であり、交通の不便さから経済活動へのアクセスが限られている。住民の主な生計手段は小規模漁業や農業であるが、近年は気候変動等の影響により収穫量や漁獲量が不安定となり、既存の生業だけでは十分な収入を得ることが難しい状況にある。町はフィリピン政府の自治体区分の中でも財政的に脆弱な自治体に位置付けられており、多くの住民が経済的に脆弱な状態に置かれている。</p> <p>ブルードットは、2021 年のスーパー台風ライ（現地名：オデット）被災地支援を契機として同地域で活動を継続してきた。2023 年度には JICA 基金活用事業として、貧困世帯 15 世帯（間接裨益者数約 75 名）を対象に家庭養鶏支援を実施した。その結果、各家庭が副業として養鶏を行い、副収入を得ることが可能となった。裨益者は利益の一部を再投資しながら養鶏を継続しており、継続した収入向上の成果が確認されている。</p> <p>一方で、病気や災害などの突発的な支出が発生した際に備える仕組みは十分ではなく、緊急時には高利貸しを利用せざるを得ない状況があった。そのため、裨益者グループでは自主的に貯蓄や貸付の取り組みを始めたが、運営ルールを口約束で進めているなど十分に機能していない状態であった。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>本事業は、家庭養鶏支援の裨益者グループが、高利貸しに依存せず養鶏事業を継続できる基盤を整備するため、グループ内での貯蓄・貸付制度の構築を支援することを目的とした。</p>	

そのために、

- 1) 組合運営に必要な規約の策定支援
- 2) ログブックや金庫などの管理ツールの導入支援
- 3) 組合帳簿の作成・管理支援

を実施し、裨益者グループが自ら貯蓄・貸付制度を継続的に運営できる体制の構築を目標とした。

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

① オリエンテーションの実施

第1回目では、日本人スタッフが現地に渡航し、グループが自主的に実施してきた貯蓄及び貸付の状況や高利貸しの利用実態についてヒアリングを行い、現状の課題や将来的に目指す姿について意見交換を行った。また、参加者それぞれの将来の夢や目標を共有し、その実現に向けた家計管理の重要性を考えるワークショップを実施した。さらに、メンバー間の相互理解と信頼関係の構築を目的として、組織づくりやチームワーク向上のための活動を実施した。

第2回目では、島外でマイクロファイナンス事業を運営している組織(OFMPC)による事例紹介に代えて、同じリマサワ島内でブルドットが支援する養豚グループの裨益者による体験談共有を実施した。高利貸しに依存しない資金管理の実践例や家計簿の活用による家計改善の事例を共有し、参加者が身近な成功事例から学ぶ機会を設けた。

② 販路再構築に向けた支援

活動期間中、町役場による鶏の買い取り方針が変更され、裨益者が養鶏を一時的に停止せざるを得ない不測の事態が発生した。まずは貯蓄の原資となる養鶏の収入回復のために、ソーシャルメディアを活用して販売に取り組んでいる事例を共有するなど、マーケティング支援を実施した。結果、裨益者自身による販売先の開拓が進み、販売方法の選択肢を増やすことができた。

③ 家計管理に関するワークショップの実施

リマサワ町役場社会福祉課のソーシャルワーカーを講師として招き、裨益者グループを対象とした家計管理に関するワークショップを実施した。ワークショップでは、収入と支出の把握、生活費と事業資金の区分、将来の支出に備えた計画的な貯蓄の重要性などについて説明を行った。また、家庭養鶏による収入を適切に管理し、事業の継続や家族の生活向上につなげるための具体的な方法について参加者と意見交換を行った。

④ 貯蓄・貸付制度の運営体制構築支援

裨益者グループが主体的に貯蓄・貸付制度を運営できるよう、組合の目的や運営方法に関するトレーニングを実施した。

外部組織 OFMPC から共有を受けたトレーニングマニュアルや預金通帳を参考にしながら、リマサワ島の実情に合わせて内容を修正し、トレーニングを実施した。貸付の優先順位、貸付限度額、利率、返済条件、信用確認方法等についてメンバー間で協議を行い、貯蓄・貸付制度の運営規約の策定支援を行った。また、裨益者から発案され、ソーシャルファンド(グループ・地域のために使う貯金)を積み立てることにもなった。なお、トレーニングは、今後島内の他地域でも同様の取組を展開できるよう、外部組織の監修のもと、現地コーディネーターがファシリテーションを担当した。

⑤ 管理ツールの導入支援

貯蓄・貸付制度の透明性及び継続性の向上を目的として、管理ツールの導入支援を実施した。

これまで口頭で管理されていた貯蓄及び貸付の記録について、外部組織の事例をもとに、裨益者の意見を反映させて帳簿を改善した。また、事業地には金融機関が存在しないことから、グループ資金を適切に管理するための金庫を制作し、導入した。

貯蓄・貸付およびソーシャルファンド規約を契約書に明示し、村長の証人のもと、メンバー全員が署名した。契約書は金庫で管理するが、日常的に規約を明示するために、通帳に添付するリーフレットも作成した。

⑥ モニタリング、振り返り

現地コーディネーターが毎週裨益者を訪問し、養鶏の実施状況及び貯蓄・貸付制度の進捗・課題確認を行った。ブルドット、現地コーディネーター及び外部組織によるオンラインミーティングを毎月実施し、活動の進捗確認や課題共有を行った。

事業終了時には、日本人スタッフが現地を訪問し、裨益者とのミーティング、協力者である外部組織 OFMPC への報告、カウンターパートの町役場と共有会議を行った。

裨益グループとのミーティングでは、組合理約の内容や管理ツールの使用状況を確認。オリエンテーション時に意見交換した、各自の夢や目標、グループの目指す姿を再確認し、今後の継続運営について意見交換した。また、裨益者の家庭を訪問し、養鶏の実施状況や、生活の改善状況を確認した。

貯蓄・貸付制度の運営ノウハウ提供の協力者である、北レイテ州の外部組織 OFMPC(過去にブルドットが支援した協働組合)を訪問し、1年間の事業実施状況と成果を報告した。OFMPCのように一定の基準を満たした協同組合には、法律上、後進の組合を支援する役割が求められている。今回の成果報告を通じて、本事業の裨益グループが今後も貯蓄・貸付制度の運営を継続することを前提に、OFMPC から、将来的な事業拡大に必要な資本の提供や運営に関するトレーニングを支援する意向が示された。これにより、事業終了後も地域内の組織間連携を通じて、貯蓄・貸付制度を継続・発展させていくための基盤を構築することができた。

町役場の町長、社会福祉課、農水課を訪問し、1年間の事業実施状況と成果を報告するとともに、今後の地域における取り組みについて意見交換を行った。ブルドットが裨益グループへの支援を

通じて蓄積した貯蓄・貸付制度の運営に関する知見を共有し、今後、町役場が同様の取り組みを推進する際の参考として活用してもらうこととした。また、ブルードットでは本事業と並行して、同島内の別グループ(養豚グループ)への貯蓄・貸付制度の導入支援も開始している。本事業で得られた成果や知見を踏まえ、今後も町役場と連携しながら、島内における貯蓄・貸付制度の普及・発展に取り組んでいくことを確認した。

(2) 実施成果：

1) 貯蓄貸付の仕組み構築

組合運営に必要な規約を整備するとともに、通帳・金庫などの管理ツールを導入し、裨益グループ内で毎月確実に貯蓄を行う習慣が形成された。事業期間中には実際の貸付実績は発生しなかったものの、緊急時には低利子で資金を借り入れられる仕組みが整ったことで、予期せぬ出費への備えが生まれ、経済面での心理的な安心感が高まった。その結果、安心して養鶏を継続するための基盤を構築することができた。また、組織づくりやチームワーク向上を目的としたワークショップ、定期的なモニタリングを通じたコンサルティングを実施することにより、グループ内でメンバーが積極的に発言する機会が増え、グループ内で選出された役員を中心に意思決定や運営を行うなど、メンバーによる自主的な組織運営も進展した。

2) 裨益者の生活向上

本事業は JICA 基金による 2 期目の事業であるが、1 期目に支援した養鶏が継続されており、養鶏による収入が裨益者の生活向上につながっていることが確認できた。

子どもを小学校・高校へ進学させている世帯に加え、大学への進学を実現した世帯も 2 世帯確認された。教育費への支出が可能となったことは、養鶏による収入が世帯の生活基盤の向上に寄与していることを示す成果の一つである。

一方、事業期間中には、当初ブルードットがコーディネートしていた町役場による鶏肉の買い取りが中止となり、一時的に養鶏を中断せざるを得ない時期もあった。これに対して、SNS を活用したマーケティング支援を行った結果、裨益者自身による販売先の開拓が進み、販売方法の選択肢を増やすことができた。

最も養鶏を継続している裨益者では、鶏の販売によって得た収益を元手として 20 回以上再投資を行っていたほか、15 回程度の再投資を行いながら養鶏を継続している裨益者も確認された。このことから、支援終了後も、得られた収益を再投資することで事業を自律的に継続・拡大する動きが生まれていることが確認できた。

さらに、養鶏による収益を活用して簡易な小売店を開設し、生肉の販売に加えてフライドチキンに加工して販売するなど、付加価値を高めた事業展開を行う裨益者もみられた。家庭訪問では、事業開始時にはトタン板であった住宅をコンクリート造りに改築した世帯も確認され、養鶏による収入が住環境の改善にもつながっていることが確認できた。

3) 裨益者と公共サービス・外部組織との接続

ブルードットが行政と裨益者をつなぐ役割を担うことで、町役場のソーシャルワーカーや畜産技師から、生活支援や養鶏に関する専門的な知識・ノウハウを裨益者に提供することができた。これにより、裨益者が地域の公共サービスを活用しながら、自らの生産活動を改善するための環境が整った。

さらに、こうした行政との接点を重ねる中で、裨益者自身の行動にも変化がみられた。町役場による鶏肉の買い取りが滞った際には、裨益者が町役場に直接問い合わせ、状況の確認や対応を求める行動がみられた。これまでは、裨益者にとって町役場に直接働きかけることは心理的なハードルが高く、行政に自ら要望を伝えることはほとんどなかった。このことから、事業を通じて行政との接点が生まれただけでなく、裨益者が自ら課題を認識し、必要な支援を行政に働きかけるという主体的な行動変容が生まれたといえる。

また、北レイテ州の協同組合 OFMPC など、地域内外の外部組織との接点をつくることで、裨益者が先行して自立的な活動を行っている地域住民の事例に触れる機会を提供した。先行事例から実践的なノウハウを学び、刺激を受けることで、裨益者自身が将来の事業拡大や組織運営を具体的にイメージできるようになった。

このように、ブルードットが行政や外部組織と裨益者をつなぐ媒介役となることで、事業期間中の支援にとどまらず、地域に存在する公共サービスや外部組織の資源・知見を裨益者自身が活用できる関係性が構築された。さらに、裨益者が自ら行政に働きかける行動も生まれたことから、外部から支援を受けるだけでなく、自ら必要な資源や支援を獲得していくための主体性の醸成にもつながった。

(3) 得られた教訓など：

①特定の関係者に依存しない事業設計

前回事業で契約していた町役場による鶏の買い取りが中断され、一部の裨益者が養鶏を一時停止する状況が発生した。この経験から、地域行政との連携は重要である一方、特定の組織や個人への依存度が高い事業設計にはリスクがあることを学んだ。今後は行政との連携を図りながらも、外部環境の変化に左右されにくい仕組みづくりを進めることを重要視したい。

②裨益者選定の重要性

団体では、経済的脆弱性だけでなく、飼育経験、地域での信頼、責任感、主体性、事業への意欲などを考慮して裨益者を選定してきた。こうした基準は、過去のパイロット事業での課題を関係者との対話を通じて見直し、発展させてきたものである。

本事業では、困難に直面しても自ら解決策を考え行動する裨益者が大半であった一方、受動的な姿勢にとどまる者もみられ、支援内容だけでなく「誰と事業を実施するか」が成果を左右することを再認識した。また、協同組合 OFMPC との交流から、組織の発展にはリーダーシップが重要であることを学んだ。現在の裨益グループでも、行政への働きかけなど主体性の芽生えが確認されてい

る。裨益者自身が意思決定や課題解決を担う機会を増やし、必要な場面で伴走することで、主体性とリーダーシップを育み、支援終了後も地域住民が自ら活動を発展させられる持続的な仕組みにつなげていきたい。

（４）今後の活動・フォローアップの方針：

販売先の変更による養鶏の一次停止に伴い、貯蓄の開始が予定より遅れた。JICA 基金事業は 2026 年 7 月で終了するが、自主事業として 12 月までモニタリングを続け、支援を継続する。

本事業を通じて整備した貯蓄・貸付の仕組みは、養鶏グループに限らず、その他の住民グループによる生計向上活動にも活用できる可能性があることが示された。資金管理や組織運営に関するノウハウは他のグループにも応用可能であり、地域住民による自立的な活動を支える基盤として活用できると考えられる。本事業で作成した規約、ログブック、トレーニング手法等のノウハウを活用し、リマサワ島内でブルドットが支援する養豚グループへの展開を進めている。

さらに、裨益者の主体性や地域ニーズを重視しながら、持続的な生計向上につながる新たな活動の可能性についても、住民や関係機関と対話を重ねながら検討していく。

３．その他(エピソード・感想・写真など)

（１）活動中のエピソード・感想など

裨益者のみなさんとの信頼関係が着実に深まったことを実感している。日本人スタッフが訪問すると、裨益者のみなさんが笑顔で集まり、それぞれ食べ物を持ち寄って海辺で交流することが恒例となった。食事を囲みながら近況を語り合い、その後に活発な議論が交わされる様子を見るたびに、支援を通じて築いてきた関係の深まりを感じている。

一方で、定量的なデータの収集には難しさも感じている。しかし各家庭を訪問すると、住環境の改善や、子どもたちの成績表や卒業証書が誇らしげに飾られている様子を見ることができ、事業の成果を実感する機会となった。こうした変化を目の当たりにするたびに、活動を継続してきて良かったと感じた。

また、レイテ島は第二次世界大戦中の激戦地としても知られる地域で、過去の歴史を忘れず、日本とフィリピンの友好関係を未来へつないでいくことも団体の使命にしている。今年はレイテで先祖を亡くした日本人ボランティアも活動に参加することになり、日本とフィリピンの国交正常化 70 周年の節目に、活動を継続する意義を改めて感じる機会となった。

(2) 活動の写真



オリエンテーションの様子



現地コーディネーターによる研修



集会・集金の様子



最も多く養鶏の再投資・販売をした3人



島外組織 OFMPC とのミーティング



ランチを持ち寄り海辺でミーティング



組合規約にサインする様子



貯蓄のための通帳



運営のためのツール



大学卒業した裨益者の子息

(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

2021 年の台風ライ緊急支援をきっかけに、事業地のリマサワ島で活動を開始した。多くの支援が緊急支援段階で終了する中、JICA 基金に採択いただいたことで、生計向上支援まで発展させることができた。その結果、事業地において被災後最も長く支援を継続している団体の一つとして、裨益者や地域関係者との強い信頼関係を構築することができた。

JICA 基金活用事業は今回で 2 期目となり、前回の養鶏ビジネス導入支援に加え、貯蓄・貸付制度の導入支援にも取り組むことができた。単発の支援ではなく、中期的な視点で住民の主体性や組織運営を育てていく支援手法を実装できたことは、団体にとって大きな成長につながったと感じている。

また、本事業で得られた養鶏事業と貯蓄・貸付制度を組み合わせた生計向上のスキームは、ほかの裨益者グループへ展開していくための基盤となった。再現可能な支援モデルを構築できたことが、JICA 基金活用事業を通じた団体の大きな成長につながったと考えている。